



紫陽花の美しい季節ですね。

祈りの力の偉大さを示すエッセイを見つけました。

ある男性がジョギング中、1軒の家の前に救急車が停まっているのを見かけた。彼は子どもの頃、助けを必要としている人や救急車、パトカーのサイレンを耳にした時には祈るようにと教えられていたので、とっさにその家の前を通り過ぎる時に聖母マリアの祈りを心の中で唱えた。

しばらくして同じ家の前を通りかかった時、その家から女性が出てきて彼に声をかけた。彼女が言うには、自宅で倒れ、病院に運ばれ、生死の境をさまよっていた時に、イエス様が目の前に現れた。そしてこうおっしゃった。「何もかも大丈夫、あなたはこれからよくなるだろう。この男性があなたのために祈ったからだ」イエスがこちらに向けた手のひらにその男性の顔が映っていた。

女性はあなたが祈ってくれたおかげで自分は命拾いをした、と心から感謝の気持ちを伝えた。

彼はたった1回の祈りでも、目的を持って心から祈れば大きな力になるのだと実感した。ましてやロザリオ1環では50回の「聖母マリアの祈り」を唱えることになるのだから、威力はどれだけのものだろう。

信仰が深ければ山をも動かすことができるとイエス様はおっしゃいました。

私達も一つ一つの祈りに丁寧な心を入れ、神様が聞いてくださっていると信頼して祈りましょう。

## <信徒委員会・各部からのお知らせ>

### <信徒委員会より>

#### 1・駐車場について

主日のミサの日は、教会の門の前のスペースは緊急車両の駐車スペースとして確保しています。(赤いカラーコーンを設置)絶対に駐車しないようお願いいたします。またこれから梅雨に入ります。雨の日は園庭に駐車できませんのでご了承ください。

#### 2・集会祭儀

7月7日より毎月第一日曜日は集会祭儀となります。「集会祭儀はミサではないので、参加しない」という方もいらっしゃると思いますが、集会祭儀はミサに劣る典礼ではありませんので、変わらずご参加ください。

### <成人養成部より>

- ・9月29日(日) 幼児教育の専門家を招いた講演会「自立する子供」を予定(先月のお知らせから題目が変更になりました)。小さいお子さん(小学生まで)をお持ちのお父さん、お母さん、ご家族皆様でお誘いあわせの上、ご参加ください。
- ・11月CAS(クリスチャンアートスペース)の展覧会を予定しています。
- ・12月の待降節中にイエズス会の神父様をお招きして「1日黙想会」を実施する予定です。近くなったら詳細をお知らせします

内容【信徒委員会】駐車場について・集会祭儀 初聖体おめでとう

【青少年養成部】初聖体について【成人養成部】幼児教育講演会・CAS展覧会・待降節の黙想会  
【青年会】 【サモア～主によばれて(29)】

## 初聖体おめでとう！！

6月2日（日）のミサの中で8人の子どもたちが初聖体を受けました。

午前11時からの日本語ミサでは **3人の子ども達**

午後2時からの英語ミサでは **5人の子ども達**



が初聖体を受けました。

**皆さん、おめでとうございます！**

初聖体を受けたからもう卒業ではありません。これから教会生活が始まるのです。これからも教会に元気を届けて、たくさん神様のために奉仕してください。



なお、**M・Mさん**はちょうど3年前（2021年6月）に重篤な病気で手術が



必要になり、ジャック神父様を通じて私達（日本語ミサ）にも回復のための祈りが願われ、ミサの中で共に祈りました。M・Mさんがこの度初聖体を受けられるまで回復したのは、皆さんの祈りがあってこそ、とご家族も感謝されています。まだ無理ができないとのことですので、引き続きお祈りください。

## 青年会より

### **MFC (MEETING FRIENDS IN CHRIST) の集い**



5月26日のMFCの集いは初聖体の子どもたちに送るお祝いのカード作りを行いました。開くとハートや花が飛び出すポップアップカードを、各々好きな折り紙などを使って楽しみながら制作しました。

そのカードを6月2日のミサの中でプレゼントしました。

次回は6月23日ミサ後12:30～1階台所（モニカ）で、英語を楽しむ活動をする予定です。興味のある方はぜひご参加下さい。



### **【音楽グループ-Musical group-】**

6月5日の集いは演奏してみたいジャンルなどをまとめたリストを作りました。

次回は7月7日ミサ後12:30～1:30 2階ヨハネの部屋で行います。

石黒（昇）



帰天された方（2024年1月～5月）の一覧は紙版の通信に掲載しております。

## † サモア～主に呼ばれて（29）†

オーストラリアを出国したのは、7月17日でした。（私の記憶が間違っていました。）。日付変更線の関係で、同日の7月17日（水）になったばかりのサモアに到着しました。サモアには観光ビザでの入国でした。移民に対してそれほどうるさくない国なので、観光ビザで入国してから、労働者ビザに変更するとの話でした。サモアは、帰りの航空券を持ってさえすれば、90日以内の観光なら簡単に入国することができます。ただし、片道航空券では観光で入国できないので、帰りの航空券を用意する必要はなかったのですが、往復航空券を購入しました。

無事に迎えに出てくれたシスターと会い、学校に連れて行ってもらいました。空港からは片道5kmくらいですので、ものの10分程度で学校に着きました。校舎の向かいにボランティア用の寮があり、ここで寝るように言われました。もう遅い時間だったので、もう一人の男性ボランティアは起きてこず、自分の部屋ですぐに寝ることにしました。翌朝、7時ころに目を覚ますと、食堂に女性二人と男性が一人いて、挨拶を交わしました。その日はというか、その週は担当する授業もなく、のんびりと過ごしました。

学校の名前は、Paul VI College（ポール・シックス・カレッジ：パウロ6世高校）という学校です。日本でいう高等学校です。学年は日本の中学2年から高校2年生までです。サモアでは、9年生から12年生という呼び方をしていました。

サモアの義務教育は日本より1年早く幼稚園の年長から始まり、中学校の1年生までの8年間です。この学校は Sisters of Mercy（シスターズ オブ マーシー：慈悲姉妹会）というアイルランドに本部がある女子修道会が運営していました。Sisters of Mercy は、ニュージーランドにも多くの修道院があり、南太平洋の国々の修道院の本部のようでした。私がいた頃は、1人のアイルランド人、4人のニュージーランド人、そして2人のサモア人のシスターが修道生活をしていました。

詳しいいきさつは分からないのですが、南太平洋を歴訪した当時の教皇 Pope Paul VI が、空港から首都のアピアに向かう際に休憩をしたのが、この村の教会だそうです。ここで休憩した際に、Sisters of Mercy の代表に「ここに高校を作りなさい」と言われて、その修道会が高校を作ることにしたそうです。

そのため学校の玄関を入るとすぐにガラスケースがあり、ガラスケースの中には教皇の履いていた白い靴などが飾ってありました。私が最初に教えたときは女子校だったのですが、次の年から共学になりました。学校の規模としては、9年生が3クラス、10年生と11年生が2クラス、12年生が1クラス、全校で400人弱の学校でした。教員は、シスターが4人（うちサモア人が2人）、アメリカ人1人、ニュージーランド人2人、フィリピン人の夫婦、サモア人1人と私の11人です。また、修道院長が学校事務も兼務していました。

学校は月曜日から金曜日まで、まだ日本が土曜日も学校がある時代、すでに週休2日制でした。朝は8時から始まります。毎朝10分程度の朝会があります。ホールに全員集まって、校長先生からのお知らせを聞き、全員で電子オルガンの伴奏に合わせて聖歌を歌います。国民性でしょうか、ハーモニーが素晴らしかったです。

朝会が終わるとすぐに1時間目が始まります。1時間は50分授業。休み時間は10分ですが、3時間目と4時間目の間だけは20分の休憩があります。Tea Timeの感覚です。先生方には、職員室に食パンが置いてあり、少しつまむことができます。子どもたちの中にも食べ物を持ってきている生徒もいました。

その休憩の後は、また3時間あり6時間授業です。毎日6時間授業ですが、学校が終わるのは2時です。授業が終わると、学校も終わります。終わった後に、会議などはないので、2時に解放されて、ボランティア用の寮（ボランティアハウス）に戻り、昼食を食べ、のんびりできました。

私は数学を担当しました。数学は時間割に週5時間あるので、毎日授業があります。着いた翌週から担当するように言われ、4クラス担当することになりました。1日4時間教えますが、日本の学校と違って授業以外の仕事はないので、現代の日本の先生方のようにブラック企業の職場という感じではなかったです。

見沼区 齊藤

🍀 おおみや教会通信はカトリック大宮教会のHP (<https://catholic-omiya.net>) でご覧になれます。

\*ご意見や投稿（本などの感想、特集してほしいことなど）を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

\*おおみや教会通信 次号の発行は **7/21 予定、原稿締め切り 7/7**

